



知っていると役立つ!!
もしもの時の安心・安全
ドライブ



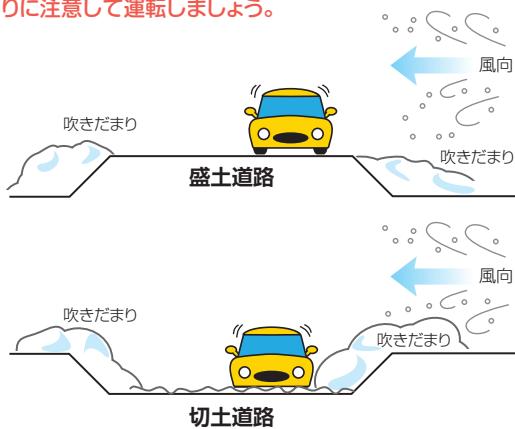
(写真:道路上にできた大きな吹きだまり)

吹きだまりの 基 础 知 識

●道路の形状と吹きだまりの関係

道路には、回りの土地よりも高い盛土道路と、低い切土道路とがあります。図は石狩市内の実験施設で観測した盛土道路と切土道路の吹きだまりの形です。

一般に、盛土道路と比べて切土道路では、吹きだまりが発達しやすい傾向にあります。切土道路では吹きだまりに注意して運転しましょう。



●停車中は排気ガスに注意!

吹雪で停止した車両の周りの吹きだまりが発達し、排気管やフロントグリルに達する場合があります。排気ガスには、人体に有害な一酸化炭素が含まれ、車内に流入すると人体に危険が生じる恐れがあります。

写真は、雪に埋まった車両の中に流れ込む排気ガスの影響を調べた時の模様です。

実験の結果、排気管が雪で埋まった場合には、10分以内に人体に危険な一酸化炭素濃度に達した例がありました。排気管の高さは通常20~30cm程度ですから、吹きだまりで発進できない状況になった場合には、エンジンを切りましょう。やむを得ずエンジンをかけたままにする場合は、こまめに排気管まわりを除雪する必要があります。



冬道では、吹きだまりにより多くの車両が立ち往生する吹雪災害がしばしば発生します。このため、寒地土木研究所では、吹きだまり災害の防止に向けた研究を行なっています。冬道運転ガイドでは、研究成果の中から冬道運転に役立つ項目を取り上げ、紹介します。

このパンフレットに掲載されている情報は、インターネットサイト「北の道ナビ」(PC版)でも見ることができます。

安全で快適なドライブにご活用下さい。

URL <http://northern-road.jp/navi/info/drive.htm>



二次元コードで携帯サイトに簡単アクセス
<http://n-rd.jp/>

(PC&携帯3社対応)



●吹きだまりでの車両の発進限界

道路に深い吹きだまりができた場合、車両の走行が困難になります。図は吹きだまりの深さと、車両の発進の可否について調べた実験の模様です。

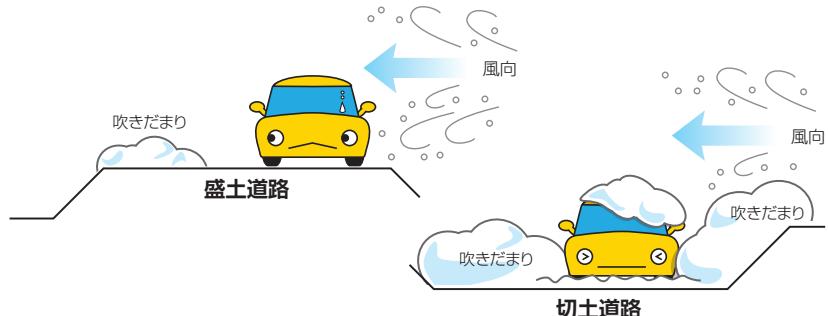
実験の結果、吹きだまりの深さが15cmの場合には発進できましたが、20cmでは殆ど進むことができませんでした。吹きだまりに注意し、無理のない運転を心がけましょう。



●停車中に車両の周りにできる吹きだまり

吹雪による視界不良や、吹きだまりによる走行困難のため、吹雪の中で停車する場合があります。下の図は、停車中の車両の周りにできる吹きだまりを表したものです。

実験の結果、盛土道路では車両の風下側の車線に、切土道路では車両周辺に吹きだまりができました。停車中の車両の周りは、吹きだまりが発達しやすいため、注意してください。



●最新の道路情報で安心ドライブを

冬の天候は変わりやすく、急な吹雪に会うことがあります。出発前に、気象情報や道路情報を確認することが重要です。

テレビやラジオのほか、インターネットで最新の道路情報を確認することができます。

寒地土木研究所が運営する道路情報総合案内サイト「北の道ナビ」では、吹雪の視界情報・投稿情報を掲載中で、道路情報や気象情報のリンクにもワンクリックでアクセスできます。携帯電話向けのサイトもありますので、移動中の情報収集にぜひお役立て下さい。このほか、冬道ドライブパンフレットも用意しています。

